

国際交流基金助成事業報告書

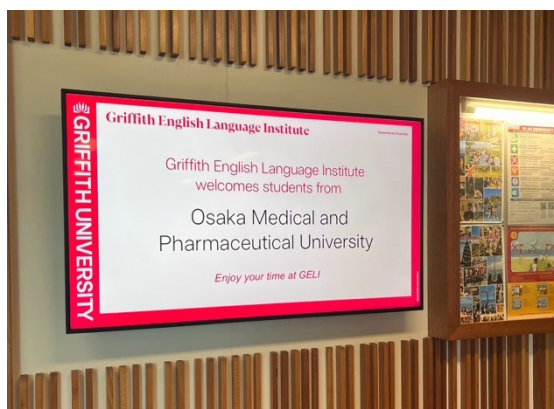
薬学部 3年次生 T.T

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、2026年3月9日から18日までの10日間、オーストラリアのクイーンズランド州にあるグリフィス大学に通い、語学研修を行いました。本報告書では、その内容について報告いたします。

2. グリフィス大学

グリフィス大学はオーストラリアにある大学で、ゴールドコーストとブリスベンにキャンパスがあります。私たちが通ったゴールドコーストキャンパスは自然が豊かで、国際色豊かな大学であることが特徴です。キャンパス内には緑が多く、ピクニックエリアのような休憩スペースもありました。また、カフェテリアでは大きなトカゲや鳥が自由に歩いており、自然の豊かさを実感しました。さらに、グリフィス・イングリッシュ・ランゲージ・インスティテュート（GELI）という留学生向けの語学学校が併設されており、留学生を積極的に受け入れている点も特徴的でした。



2-1. 語学学習

英語のレッスンでは、リスニングとスピーキングが中心でした。ほとんどがグループワークで構成されており、英語で話す機会が多くありました。最初は日本語で話してしまうことも多く苦労しましたが、日を重ねるごとに英語で言える表現が増え、成長を感じることができました。また、グループ対抗のゲームもあり、1回生や2回生の時に学んだ医療英語を実際に使う機会もありました。ゲーム形式であったため、楽しみながら英語を話すことができました。授業はすべて英語で行われましたが、先生が簡単な単語やジェスチャーを使って説明してくださったため、理解しやすく、毎回充実した授業となりました。

2-2. 薬学部見学

大学の薬学部での授業を体験しました。特に印象的だったのは、デジタル化が進んでいた点です。教室の壁一面がスクリーンになっており、さらにVRのような機器が導入されていました。VRでは臓器やウイルス、細菌などを立体的に観察できるだけでなく、内部構造の説明を確認することもでき、その働きについても学べるため、実際に触れるような感覚で理解を深めることができました。

また、AIも導入されており、仮想病院では200人の患者が入院している設定となっていました。1人1人にバーチャルのカルテがあり、音声で会話ができるため、コミュニケーションの練習にも活用されていました。英語だけでなく日本語を話す患者もおり、グローバル化に伴う多言語対応の練習ができる点も良いと感じました。

3. ホームステイ

私はクイーンランド州のパシフィックパインズというところに滞在しました。自然がとても豊かな地域で、安心して過ごすことができました。家の前には大きな池と公園があり、バーベキューのための設備や遊具、ベンチなどが準備されていました。ウォーキングをしている人や犬の散歩をしている人、自転車の練習をしている人、誕生日をお祝いしている人など地域のたくさんの人が様々な目的で利用していました。散歩をしていた時、すれ違う人全員が挨拶をしてくれたことが印象的でした。フレンドリーでおおらかな人柄を感じました。公園が人々の憩いの場となっていました。

ホームステイで楽しみにしていたのは食事です。日本とは異なる食材で、異なる味付けのものが食べられるかなとドキドキしていました。朝ごはんではトーストやシリアル、フルーツを食べました。世界一まずいジャムといわれるベジマイトに挑戦しました。醤油のような味で意外と美味しかったです。昼食にはサンドイッチとフルーツを食べました。フルーツの種類がとても豊富で毎日新しいフルーツを食べました。日本ではカットして準備されることが多いですが、桃やリンゴなどの皮がついている大きなフルーツでさえ丸かじりをすることに驚きました。夜ごはんでは、マンゴーチキンやクリームパイ、ビーフのホットサンドなど、毎日違う料理を作ってくれました。嬉しかったのは、日本が恋しくなってきたかなと心配して焼きうどんを作ってくれたことです。



4. 海外研修の目標とこれから

私はオーストラリア渡航前に2つの目標を決めました。1つ目は、自分の思いを言葉で伝えることです。特に感謝を口に出して伝えることを意識しました。例えば、英語でいただきますやごちそうさまという意味の単語がないため、“thank you”を積極的に使いました。そこから会話が始まることが多く、英語を使う機会をたくさん作ることに繋がりました。2つ目は、他国の文化や生活、医療について実際に体験することで視野を広げることです。医療体制について話を聞いたり、病院を見て回ったり、ホストファミリーと生活したりする中で、オーストラリアの良さに気づいただけでなく、日本の良さについても再発見することができました。

5. 最後に

今回の研修は非常に貴重で、充実した11日間となりました。初めは不安もありましたが、実際に生活してみると多くの学びがあり、自分自身の成長を感じることができました。英語を完璧に話すことよりも、積極的に話そうとする姿勢が大切であると実感しました。オーストラリアでの出会いや経験はどれも印象に残るものでした。これからは、オーストラリアで受けた刺激を大切にしながら、大学生活だけでなく、日常を豊かなものにしていきたいです。

